

2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動		担当者名	町村悠香、川添愛奈			
会期	2022年4月23日(土)～7月3日(日)		開催日数	62日			
協賛・後援・協力	助成：芸術文化振興基金						
巡回館	なし						
展覧会概要	本展では戦後日本で展開した2つの民衆版画運動を紹介した。1つは中国の木刻(木版画)運動の影響で版画による社会運動と版画の普及を目指した戦後版画運動。もう1つは、戦後版画運動から派生し、全国の小中学校教員たちが学校教育のなかで版画教育を広めた教育版画運動である。約400点の豊富な作品と資料を通して、あまり知られることのない版画史の一側面に光を当てる機会とした。						
ねらい・対象	2つの民衆版画運動を連続した事象として捉える初めての展覧会として開催した。ちらしやHPの紹介文冒頭では「子どもの頃に版画を作ったことはありますか?」と問いかけ、キャッチコピーは「工場で、田んぼで、教室で みんな、かつては版画家だった」とした。これにより多くの人が学校で経験した版画制作の記憶を呼び起こし、自分が行った活動に実は歴史的な背景があったことを知ってもらい興味を喚起することをねらった。また戦後の様々な社会問題、平和運動を扱った作品を展示したため、ニュースなどに関心を持つ層にもアプローチした。						
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数		
	版画作品募集	会期中全日程	「私も版画家だった」		19人		
	トークイベント	5月21日(土)	「アーティストがみる教育版画」	湯浅克俊 聞き手：担当学芸員	41人		
	子ども講座	5月7日(土)	「昭和にタイムトラベル!ガリ版にチャレンジ」 みてみてつくろう	杉浦幸子 制作指導：普及係学芸員 上村牧子	16人		
	絵本・紙芝居読み聞かせ	会期中の 毎週木曜日(10回)	おはなしのじかん	せりがや冒険遊び場ブ レーリーダー	189人		
	絵本・紙芝居読み聞かせ	5月14日(土)	みんなのステージ	せりがや冒険遊び場ブ レーリーダー、担当学芸 員	60人		
	上映会	6月4日(土)	教育映画『たのしいはんが』解説付き上映会	担当学芸員	52人		
	スライドトーク	5月8日(日)、 6月18日(土)	担当学芸員によるスライドトーク	担当学芸員	79人		
	プロムナード・コンサート	6月19日(日)	「うたごえ喫茶で甦る青春」	奥村浩樹(テノール)、 鶴戸西到(ピアノ)	130人		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日			
	900円	450円	無料	・初日：4/23 ・シルバーデー(65歳以上無料)：4/27,5/25,6/22			
	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	5,986人	2,853人	8,839人	7,349人	511人	500人	—人
	目標値						9,576人
主な収入	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入		その他の特定財源	
	4,638千円		2,012千円	469千円		3,000千円	
事業経費	講師謝礼		128千円		10,671千円		
	原稿執筆謝礼		198千円				
	展覧会出陳謝礼		116千円				
	通信運搬費		3,995千円				
	作品額装委託料		602千円				
	広告宣伝委託料		1,070千円				
	ポスター等作成委託料		3,517千円				
	ディスプレイ作成委託料		1,045千円				
主な広報・取材等の講評	【新聞(文化面)】読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、東京新聞、しんぶん赤旗、共同通信配信記事 【雑誌】芸術新潮、月刊アートコレクターズ、週刊文春 【ウェブ】ARTNewsJapan、Tokyo Art Beat、朝日新聞Globe+、美術手帖webほか(新聞、雑誌、ウェブはいずれも展覧会レビュー)						

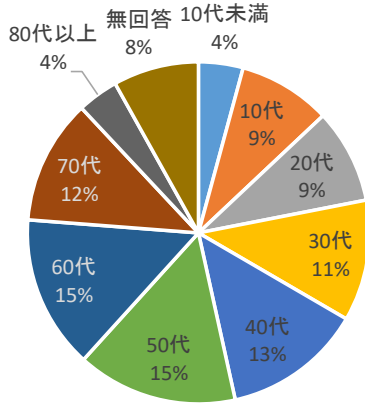
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	594 件	6.7 %	17 %	48 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
	主なご意見	別紙のとおり。						
工夫と反省点、改善方法	予備調査	2018年夏から外部の研究者らとともに戦後版画運動の機関紙を読む研究会を開始した。2019年春にミニ企画展「彫刻が刻む社会と暮らし」展を開催し、関連する収蔵品を展示。この展示に関係者が来館したことで、更なる作品・資料調査、インタビュー調査につながった。2020年秋ごろに本展が開催することが決まり、本格的に準備を始めた。新型コロナウイルスの影響による行動制限で地方調査で予定変更になることが多かった。						
	作品選択	作品・資料400点を選定し、約6章構成とした。展示スペース、借用期間に制限がある約10点を前期・後期で展示替えした。1～3章まではほぼ時系列で「1章 中国木刻のインパクト 1947-」は中国木刻の全国巡回展を紹介、「2章 戦後版画運動 時代に即応する美術 1949-」では労働運動、農民運動、平和運動に関連する作例を展示、「3章 教育版画運動と「生活版画」 1951-」では教育版画運動の興りを提示した。「4章 ローカルへ グローバルへ 版画がつなぐネットワーク」では草の根の活動として全国の労働者らのサークル誌、国際的な広がりとして中国・アメリカ・ソ連での展覧会を紹介した。「5章 ライフワークと表現の追求」では主題・造形性の追求に着目し各作家の個性が伝わるよう作品を選定した。「6章 教育版画運動の開花 1950年代-90年代」では教育版画運動の展開と全国的広がりが体感できるよう、各地の共同制作大型作品と版画文集・版画集を展覧した。						
	図録作成	原稿の執筆は研究会に参加した3名(池上善彦、鳥羽耕士、白凜)と担当学芸員の4名で分担し、研究会に参加した黒川典是が編集に加わった。テキスト1本、コラム4本、作品解説、フローチャート、雑誌再録、主要事項年表、主要参考文献を収録。売れ行きは大変好調で、会期末の10日前に840部が完売したため、増刷の問合せが多数あった。						
	広報	従来のプレスリリース発送、広報まちだへの掲載、当館Twitter、Instagramでの告知に加え、オンラインプレスリリースを導入した。また本展では試行的にプレス向け内覧会を行った。メディア関係者に初期からアプローチできたことで展覧会の意義が伝わり、多くのレビュー執筆につながったと考えられる。会期の後半からは公式SNSで作品解説の発信も行い好評だった。						
	宣伝	駅貼り広告は実施せず、SNS広告(Twitter、Facebook)に絞った。SNS広告では「展覧会・美術関心層」、「国際問題、政治関心層」に向けて配信し、うまくターゲティングが当たった。上記の通りオンラインプレスリリースの導入効果で、従来は掲載されなかった媒体で紹介された。さらに新聞、雑誌、ウェブなどで多くの展覧会レビューを寄せてもらうことができ、展覧会後半に向けて来館者数が大きく伸びた。アンケートでは展覧会情報の入手先が「⑦家族・知人からすすめて」が最多で、多くの来館者が個人のSNSに感想を書いて宣伝してくれた効果が反映されたと考えられる。						
	ディスプレイ	1～4章ではサイズが小さい作品や資料類が多いので、展示にメリハリをつけるため5章以降ではサイズの大きい作品を出品した。また映像も出品し、関連写真のパナーを作成することで、当時の臨場感が出るよう工夫した。6章の教育版画運動の展示では、部屋の中央に全国の版画文集・版画集を並べることで、教育版画運動が全国的に広がったことを体感できる空間づくりを目指した。						
	輸送・展示撤去	借用先が多かったため、11月から順次借用作業をはじめていった。大雪で延期になる借用先もあったが、概ね問題なく借用することができた。展示作業は4日間かけて行った。出品点数が多かったため、他の学芸員の手も借りて作業を行ったが、展示日程・作業人員にもう少し余裕を持たせる必要があった。						
	イベント	来館者が子ども時代につくった版画を募集する「私も版画家だった」というイベントを会期を通して開催し、ロビーに希望者の作品を展示した。聴講系では湯浅克俊氏(版画家)を招いたトークイベント、教育映画の解説付き上映会、担当者によるスライドトーク、プロムナードコンサートを開催した。制作系では、ガリ版づくりと鑑賞を結びつけた子ども講座を開催。また館外ではせりがや冒険遊び場にて、乳幼児向けに教育版画の絵本・紙芝居の読み聞かせを行った。						
その他特記事項	非常に多くの展覧会レビューが寄せられ、以下に関してはクロスレビューに発展するなど波及効果が大きかった。 ・横山由季子 「「私たち」の美術史に会える展覧会。町田市立国際版画美術館「彫刻刀が刻む戦後日本」展レビュー」WEB『Tokyo Art Beat』2022年6月17日 ・小田原のどか 「版画に宿る抵抗の精神(ぐるぐるキョロキョロ展覧会<25>)」 『芸術新潮』2022年7月号 ・菅原伸也 「戦後日本美術史のブラインド・スポット「彫刻刀が刻む戦後日本」展をめぐる」WEB『ARTnews JAPAN』2022年6月29日 ・山本浩貴 「ブラインド・スポットのその先へ ——再び「彫刻刀が刻む戦後日本」展をめぐる」WEB『ARTnews JAPAN』2022年7月14日							

# 「彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動」展 アンケート集計結果

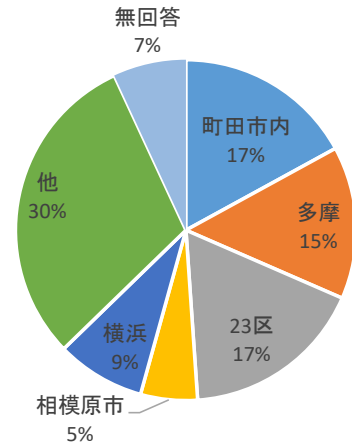
開催期間：2022年4月23日（土）～7月3日（日）

回答者数：594人（総入館者数：8,839人 アンケート回収率：6.7%）

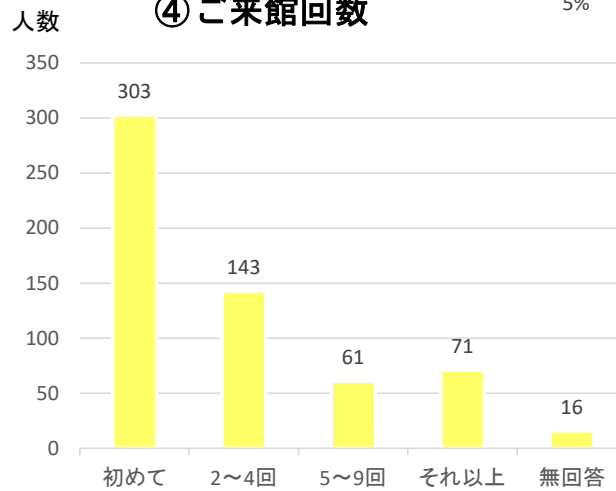
## ① 年齢層



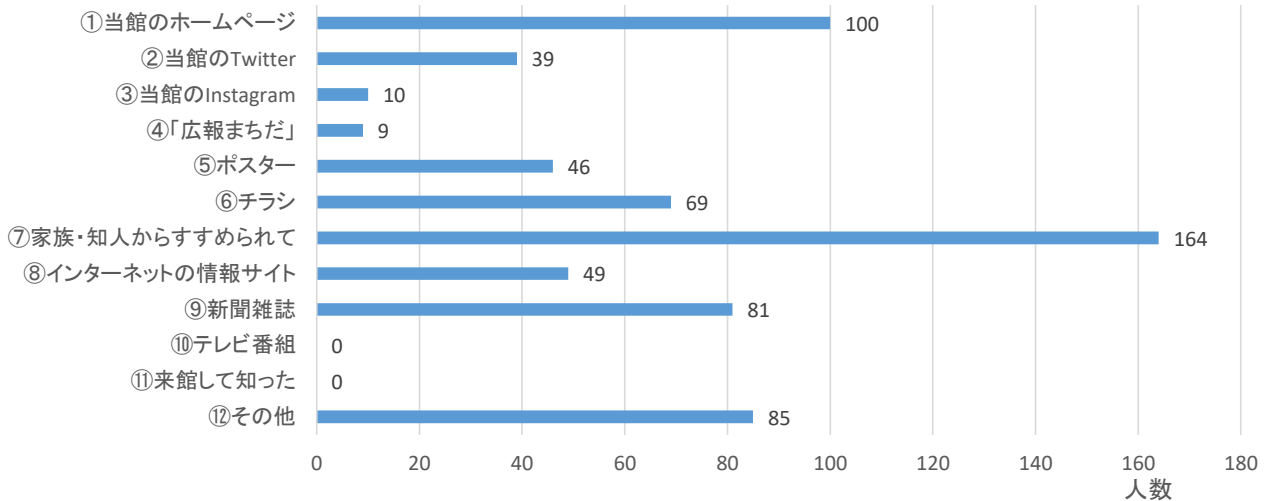
## ② お住まい



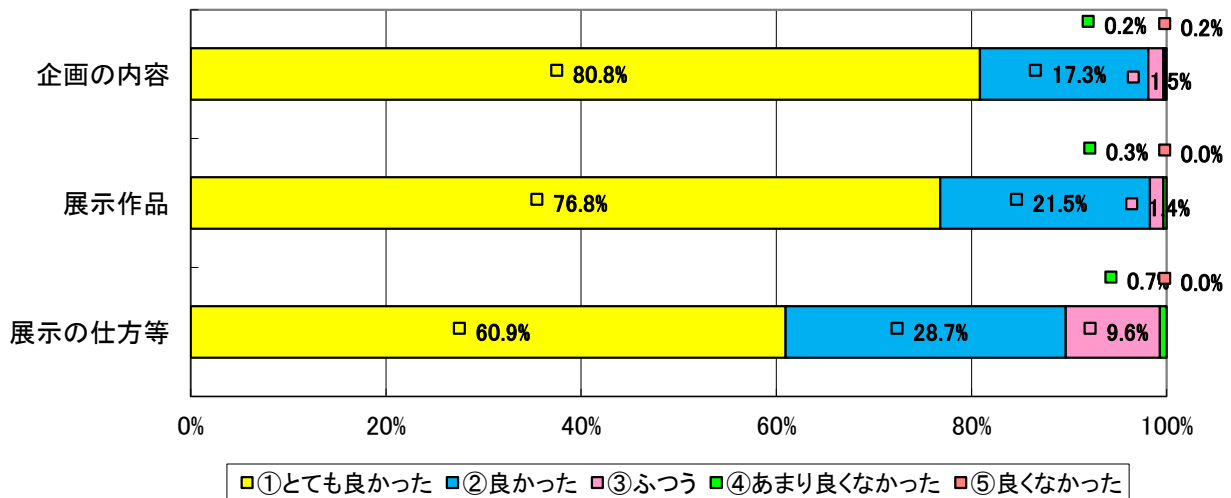
## ④ ご来館回数



## ④ 展覧会情報の入手



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

### ◆企画の内容

- ・子どものころ図工でやった版画が戦前戦後からの美術の流れの先にあったとはとても驚きだった。
- ・戦後の図工・美術教育を顧みる珍しい展覧会で意義が深い。
- ・丁寧なりサーチの成果がキュレーションに発揮されていた。
- ・知らなかった版画の歴史を知ることができ、版画の専門館らしい企画でよかった。
- ・平和の大切さを改めて感じた。

### ◆展示作品

- ・子どもたちの作品のエネルギーに圧倒され、感動した。特に共同制作大型作品が素晴らしかった。
- ・「魔女の宅急便」の劇中画のもとになった作品を見られて嬉しかった。目当ての作品以外にも素晴らしく、歴史的背景も知ることができた。
- ・版画と漫画の関連性を知ることができて興味深かった。
- ・テレビが娯楽として現れる前、サークルを作っているいろんな人がアマチュアとして版画やその他の芸術を楽しみ制作していたことが知れて面白かった。
- ・中国木刻の表現に触れることができてよかった
- ・版画とはこんなにも迫力があり、心に訴えるメッセージ性があるのだと初めて知った。

### ◆展示の仕方やキャプション

- ・十分な説明と補足があって分かりやすかった。
- ・撮影できる作品があるのはよいが、可能箇所をもう少し増やしてほしい。
- ・作品によっては照明がアクリル面に反射していて見えにくかった。

### ◆その他、感想・要望など

- ・自分も子ども時代に共同制作で大型作品を作ったことを思い出した。自分の経験もこうした歴史の流れのなかにあったのだと理解できた。
- ・自分の母校で担任の先生が指導した作品があり、とても懐かしく嬉しかった。
- ・生活綴り方と版画、うたごえ運動、労働運動や中国文化とのつながりなど、自分の中でじっくりこなかったことが一つにまとまりました。
- ・今では図工・美術の時間が減って版画をあまり作らなくなっているのが残念。
- ・ケーテ・コルヴィッツの展覧会が見たい。
- ・教育版画の作品をもっと見たい。
- ・自分も版画を作りたくなった。

アンケート回収率が6.7%と高く(通常3~4%台が多い)来館者の反響が大きかった。

集計結果では50代、60代が最も多いが、30代~70代が各年代10%を超えており、幅広い年齢層にアプローチできた。

地域をみると「その他」が最も多く、遠方から本展のために来館した人が多かった。このことは初めて来館した人の割合が高かったこととも連動していると考えられる。

情報源は「⑦家族・知人からすすめられて」が最も多く、来館者個人のSNSを介した口コミ効果が大きかった。